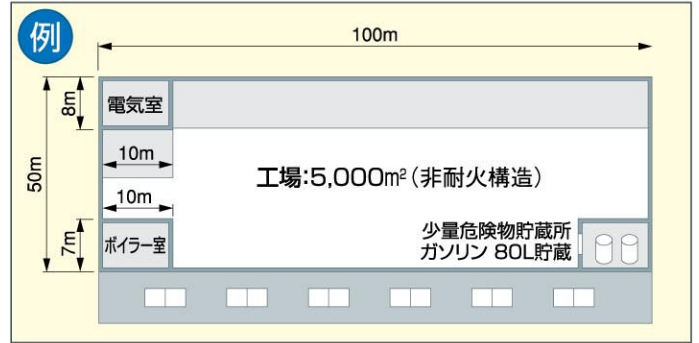




# No.02

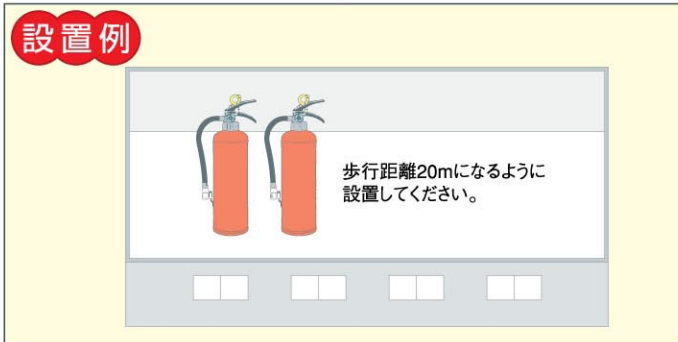
## 一般建築物〈消防法施行規則第6条〉その1

基本的設置法として①能力単位 ②設置距離(歩行距離20m)を満足させる。



### 〔消火器設置計算方法〕

倉庫の場合 **(B)** の対象物になります。(P.06 消火器設置基準表より)  
 $1,000\text{m}^2 \div 200\text{m}^2 = 5$  (単位) ……A火災用5能力単位以上必要  
(延面積) (倉庫・耐火構造の) 基準面積



粉末(ABC)消火器10型設置の場合(A-3・B-7・C)  
 A能力単位が3単位ありますので…  
 $5 \div 3 = 1.6 \leq 2$  2本以上必要

### 〔消火器設置計算方法〕

工場の場合 **(B)** の対象物になります。  
 $5,000\text{m}^2 \div 100 = 50$  (単位) ……A能力単位  
(延面積) (工場・非耐火構造の) 基準面積  
 ABC10型を設置すれば、A火災に対し3単位ありますので、  
 $50 \div 3 = 16.6 \leq 17$  本以上必要

### 付加設置

▶ 指定数量未満の危険物を貯蔵し又は取扱う…  $\frac{\text{少量危険物の数量}}{\text{危険物の指定数量}} \leq \frac{\text{設置する消火器の能力単位合計値}}{\text{能力単位合計値}}$

$$\frac{80\text{L}}{200} = 0.4 \leq 1 \text{ (単位)} \dots\dots \text{B能力単位}$$

▶ 電気設備……電気設備のある場所の床面積100m<sup>2</sup>以下ごとに1個以上設けること。

$$\text{電気室} \frac{80\text{m}^2}{100} = 0.8 \leq 1 \text{ (単位)} \dots\dots \text{電気火災に適応する消火器設置本数}$$

▶ 多量の火気使用場所…  $\frac{\text{当該場所の床面積}}{25\text{m}^2} \leq \frac{\text{設置する消火器の能力単位合計値}}{\text{能力単位合計値}}$

$$\text{ボイラー室} \frac{70\text{m}^2}{25\text{m}^2} = 2.8 \leq 3 \text{ (単位)} \dots\dots \text{A火災に適する消火器}$$

